

星川だより



熊谷空襲を忘れない市民の会 会報

『平和をつくる』活動に寄せて

加藤一夫



を超えて日本一になったこともある。北海道生まれの私には、相当大変かなと思っていたが、住んでみるとそれほどでもなく、今のところ安心して居るので・・・。

とここで熊谷は、1945年8月14日深夜から15日未明にかけて米軍の空襲（空爆）を受け、秋田市や小田原市とともに「最後に空襲された町」として知られている。まさに敗

戦・終戦日（正式には9月2日）直前の空襲であった。この空襲により死者266人、市内7割以上が焼失した（星川に「戦災者慰霊之女神像」が建っている）。実は、妻の両親も新婚早々にこの空襲で家を失っている。この空襲状況については、以前

東京でこの町の出身作家森村誠一さんの講演でその様子を聞いたことがある。1970年に「東京空襲を記録する会」が設立されると、「空襲記録活動」は全国各地に拡大した。私のいた静岡県でも各地で活発な活動が行われていた。現在でも8月の平和月間には

熊谷市にある妻の実家に移り住んで2年が過ぎた。それまで24年間は、静岡県の海辺の町焼津市で一人暮らしをしていた。内陸の熊谷での生活に今もまだ多少の戸惑いを感じている。私自身、50年ほど前の新婚時代に籠原に短期間住んでいたことがある。当時は、まだ熊谷市内にアーケード商店もあり活況を呈していたが、現在は、多くの地方都市と同様、首都圏にあるこの町も人口減が進み、市内に空き地や空き家が目立っている。熊谷は「暑い街」として知られていて、確か、数年前40度

「平和のための戦争展」などが県内各地で開かれている。戦争体験・空襲体験の継承は、「いのちをつなぐ」大切な活動である。

熊谷でも市民グループが独自に「熊谷空襲を忘れない市民の会」を結成し活動していることも以前から知っていた。会は、空襲という歴史体験を継承し、

平和の大切さを後世に伝える様々な活動を行っている。平和憲法、核や原発、沖縄・基地問題、その他、身近な生活問題の課題に向き合って「平和な社会を実現する」ことを目指している。

私自身、焼津で、20年近く港を拠点に平和をつくる運動（「焼津流平和の作り方」）を行ってきた。焼津市は、被爆船「第五福竜丸」の母港として知られ、現在では戦後平和運動の「聖地」となっている。

昨年暮れ、熊谷で会のメンバーと話しあう機会を得た。その時から、私自身、焼津でのこの経験の内陸の地熊谷で新たな平和運動としてどう再起動するかを考え始めている。平和活

動とは「いのちを守る」行動である。

安倍政権もすでに5年。平和憲法も危機にあり、日本は戦争へと向かっているように見える。知性や理性の欠落、モラルの低下、フェイクニュースやヘイト言説の氾濫、ごまかしやだましの増加、価値観の弛緩など社会の崩壊も進んでいる。これをどう阻止するのか。地域生活圏から平和の問題を考えていきたい。



加藤一夫さんのご紹介

加藤さんは、静岡県焼津市にある静岡福祉大学の学長（現名誉教授）を務める傍ら、第五福竜丸事件の地元でもあることから、焼津流平和のつくり方などの反核平和運動を行ってきました。著書に「ビキニ・やいづ・フクシマ」（社会評論社）など。

現在は熊谷市在住で、熊谷空襲を忘れない市民の会に賛同され、会では今後「熊谷平和講座」を開催して、加藤さんの経験などの平和講座を予定しております。

平和な社会を求めて

渡辺真知子

私は母（1928年生まれ）の「どんな理由があっても、戦争は絶対にだめ！」という言葉聞きながら育ち、社会科学の授業では、「日本国憲法前文を覚える」という課題に取り組んだ。

小一の時に伊勢湾台風（1959年）で家が濁流に飲み込まれた時も（隣家の母子3人は亡くなられた）、父が難病に罹って失明し転職した時も（土木設計技師→鍼灸師）、それなりに次のステップに進めたのは、日本が平和な社会だったからこそのこと。

番組を制作していた弟が自死した時は、信仰をあたえられて、日本聖書神学校（夜間4年制）、社会人大学院（夜間東洋英和女学院大学大学院死生学領域）に進んで私は必死？に勉強した。卒業後は、社会の周縁で生きづらさをかかえる方々と共に在りたいと願って、監獄人権センターの

ボランティアを始めとして様々な人権に関するアクションに参加し続けてきた。

大切な命を脅かす、原発・核兵器・安保法制・沖縄問題等は、全て一つにつながって

いて、最大の環境破壊も、戦争によってもたらされる。人は誰でも社会的弱者になる可能性を持っている。弱い立場になった時、やさしく救いの手が差し伸べられる社会を、皆さまと手を携え、支え励まし合いながら祈り求めていきたい。この願いをかなえるためには、何よりも平和な社会が大前提である。弱い人に優しい社会は、きっと豊かな社会であることを信じて、小さな私のできることに、一つ一つ取り組んでいきたいと思う。

イベント報告

熊谷空襲戦跡巡り

開催日

二〇一七年二月十八日(日)

二五日(土)

佐藤加奈世さんにガイドをお願いして開催しました。佐藤さんが作成した「くまがや平和マップ」に基づき戦跡を巡ったのですが、既に取り壊されているところもあり、改めて保存の重要性を認識しました。特に407号線鎌倉陸橋北側の西脇にある平和地蔵や「舌代」の木札は熊谷市の歴史遺産と思います。付近の方が守っているそうです。佐藤さんの軽快なテンポと要点を押さえた解説、見所聞き所満載のウォーキングでした。戦災を生きのびたケヤキ

から最後は熊谷女子高校の北門までの約2時間でしたが、長年熊谷に住んでいる割に知らないことも多く勉強になりました。

「舌代」

顧るに昭和二十年八月十四日夜半より翌一五日に亘り、吾が熊谷全市は火の海と化し、言語に絶する混乱状態となりたり。

折しも星川の流に身を投じて避難せる人々は、川の両側に並ぶ家屋の焼落ちる火と火との間に、哀れにも狂い死をなしたる者多大なり。

又無残や大火傷を受け、薬石効無く遂に尊い一命を失った者驚く勿れ全市に於て其の数実に二百有余命なり。そのお気の毒な方々の最後を思いやり、情厚き全



ドキュメンタリー映画

「逃げ遅れる人々」

—東日本大震災と障害者—

日時 3月11日(日)

開場 13:00

開演 13:30

場所 熊谷荒川公民館 3F ホール

熊谷市宮前町 1-24-1

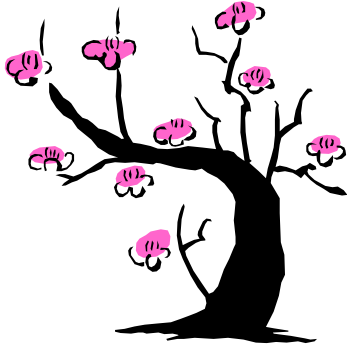
参加費 無料

主催 在宅ライフ倶楽部

連絡先 090-3085-3435 (清水)

（「舌代」とは口上書きのことです。書かれている木札は劣化が酷く残念です。内容は総務省HPより転載しました。吉田庄一）

市有志の皆名様と共にここに平和地蔵尊並火伏地蔵と唱えて建立せしものなり、斯くのごとき死者の中には身寄り頼り無く不幸此の上も無き靈魂の為に何卒一片の香花を手向け下さる様御願ひ申し上げます。



～ カンパのお願い ～

熊谷空襲を忘れない市民の会では、広く活動費用を募るため口座を開設しました。ご協力のほどよろしくお願ひします。なお、会計報告はこの紙面により行います。

ゆうちょ銀行

口座記号・記号: 00100-7-265321

加入者名: 熊谷空襲を忘れない市民の会

口座名称カナ: クマガヤクウシュウヨウス

レナイシミンノカイ

他行からの振り込みの場合は

店名(店番): 〇一九店(019)

預金種目: 当座

口座番号: 0265321

会計報告 (2017/09/20~2018/01/15)

収入: 2,000 円

支出: 10,000 円

残高: 90,059 円

編集担当者を募集します。

編集委員 吉田庄一 米田主美

連絡先 吉田庄一 (090-4957-9181)

メール imajn241@gmail.com